

## ～1人ひとりの感じ方(感性)を育てる時間～

絵の具と画用紙、筆を置き、指示はなく「どうぞ」という投げかけだけで始めました。

筆で塗り、画面で混ざる色を見つめ「きれい」とつぶやいています。紙に絵の具を流します。容器の中で絵の具を混ぜている人もいます。赤、青、黄色の三色から無限の色が生まれます。溜まった絵の具の上にティッシュを乗せると、染みていく様子を、手を止めてじっと見つめています。それを握り、絞り、グチョグチョにする人もいれば、ティッシュをふわりと画面に重ねていく人もいます。床や机のビニール上にこぼれた絵の具が、はじくのを見えています。手足を浸し、手形足形を取り、自分の手をじっと見つめています。

途中で澱粉のりを出しました。

戸惑いながらも指先で触れてみて、それで遊び始めます。触れない子はヘラで澱粉のりと絵の具を混ぜ、紙に付けています。絵の具の中から、のりをすくい上げる事を楽しむ子もいます。

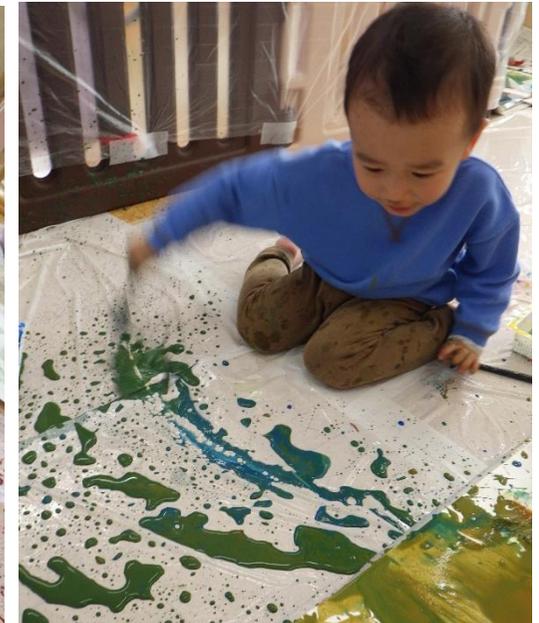
どの人も自分の手元に集中し、真剣な表情です。いつの間にか、それぞれが興味ある事に没頭していました。

大人は「こうしよう」と引張るのではなく、声掛けを控えて見守りました。色のおかわり、紙の交換、等も本人の意思を確認しました。子どもが感じる間(ま)を保障し見守っていると、その子なりに感じ、考えているのが見えてきます。自分で考え、選択しながら、自分の世界に集中していったのでしょう。

絵の具を流す、飛ばす、混ぜる、塗る、拭く、感触、等一人ひとりが違う感じ方で遊んだ痕跡には、その子が心を動かしたものが現われています。同じものはありません。形に残らないものもあります。上手い下手では評価できない、個々の感性が表現されています。



黙々と混ぜ、探求する。



絵の具を飛ばす。止めずに叶える環境を作った。



絵の具とのりを混ぜる。真剣な眼差し。



何を感じているのかな？